

協働事業の実施に向けて

～平成25年度協働事業提案に基づく提言～

平成25年11月

柏市民公益活動促進審査委員会

「平成25年度協働事業提案に基づく提言」について

本書は、平成25年度の協働事業提案制度の結果に基づき、来年度実施すべき協働事業及び課題について、審査委員会から柏市へ提言するものである。

* * * * *

今年度の提案制度は、次のようなスケジュールで運用された。

4～5月	提案事業の募集
7月1日	審査会 (提案のあった2件のうち、1事業が選考通過)
8～9月	調整協議 (選考通過した事業について、事業のブラッシュアップ、 または具体的な事業や協働方法の協議を実施。提案者、 担当課、協働コーディネーター、協働推進課(事務局) が協議に参加)
10月21日	調整協議報告会 (調整協議の結果を審査委員会に報告)

今年度は、1件の事業が審査を通過した。約2か月間の調整協議を経て、協働事業として成果を十分期待できるものとなったため、本提言書において来年度事業としての実施を提言する。

目 次

- 1 審査会通過案について …… 1 頁
- 2 審査会及び報告会を終えて（安藤委員長） …… 5 頁
- 3 資料：これまでの協働事業提案の状況 …… 6 頁

■柏市民公益活動促進審査委員名簿（◎委員長，○副委員長）

◎ 安 藤 雄 太	法政大学現代福祉学部兼任講師
○ 朝 倉 暁 生	東邦大学 理学部 生命圏環境科学科 准教授
佐 藤 和 裕	JOBAN アートラインプロジェクト柏実行委員会 前事務局長
西 藤 尚 子	赤ちゃんのほっぺ 代表
金 指 奈緒子	市民公募委員
松 本 茂	市民公募委員
小河原 博 志	柏市 企画部企画調整課 主査
高 橋 直 資	柏市 地域づくり推進部協働推進課 課長

■協働コーディネーター名簿

松 清 智 洋	柏市民活動センター マネージャー
松 永 敏 明	元協働事業提案制度・市民公益活動補助金選考委員（市民公募委員）

1 審査会通過案について

2件の提案のうち、審査会を通過した1件の提案について、提案者と関係部署、事務局、協働コーディネーターの4者間で調整協議が実施された。

去る10月21日に、これまでの調整協議に関する報告を受け、その結果を踏まえて当該協働事業の実施を市に提言することとした。

審査通過提案

提案事業名	〔行政指定テーマ〕 松葉近隣センターから始まる開かれた公共・繋がる公共
提案団体名	特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブういず
事業関係課	地域づくり推進部 松葉近隣センター， 地域支援課

選考及び調整協議の結果概要

1 市や社会の抱える課題	○近隣センターのみでは、センター内外の管理に限界があり、新しい発想を求めている。 ○近隣センターの利用方法や利用団体の活動内容等の周知、広報に工夫が必要。
2 事業の概要	○近隣センターの情報や掲示物の整理と展示 2人×週4時間、50週/年 ○ニューズレターの発行 年3回（7月、11月、3月）5000部発行 戸別配布 ※平成26年度は、準備期間を要するため年2回（11月、3月） 編集、取材協力員の募集 4人体制 戸別配布・・・地域の活動団体との連携、見守り ○コミュニティづくりの花壇 コミュニティの活性化・街づくりをテーマに、花壇を設計し活動を担え継続して管理できる人材を育成し仕組みを作る 指導協力：千葉大学環境健康フィールド科学センター（福祉園芸療法の視点）・・・年間延べ30人の参加
3 なぜ協働が必要か	○地域に根ざしたセンターとして、効果的な情報発信や一層の地域コミュニケーションの活性化を図りたいが、市民の視点を入れるためには、市民や団体と協働で取り組んでいくことが不可欠となるため。

4 事業経費 (調整協議を踏まえた額)		【概算事業経費 1,426,560円】		
区 分		見積額 (単位：円)	積算根拠 (数量, 単価など)	
事業 2	講師謝礼	15,000	謝金@5000×講座3回 交通費込み	
	編集活動費	240,000	編集活動員4名 編集会議12回 活動時間平均6.25h×12ヶ月×4人×@800/時 年間300h	
	配布活動費	36,000	4500部×@4×2回配布 11月・3月頃	
	印刷代	162,000	@15円(裏表)×5000部×2回発行×税	
	消耗品費	64,800	WiFiルーター付レンタルパソコン1年契約 @5000/月×12ヶ月×税 《比較》Acer TM5760-XSS58HBFノートPCリース @4,600/月 期間3年解約原則不可又は解約料基本料金の0.75%の支払い	
		38,800	事務文具・インク代他 ≒@3,000/月×12ヶ月×税	
取材費	24,000	取材打合せ諸経費@2,000/月×12ヶ月		
小計		580,600		
事業 3	講師謝礼	45,000	謝金@5000/回(交通費込み)×講座9回	
	講座消耗品費	43,200	プリンター20ヶ×@2000×税	
		32,400	土壌(18L)30ヶ×@1000×税	
	64,800	肥糧・種苗 テキスト代等 @2000×30人×税		
小計		185,400		
運 営 費	事業1事務局人件費	320,000	センターの情報や掲示物の整理、展示 4h/週×2人×50週×@800/時 年間400時間	
	事業2事務局人件費	76,800	編集会議12回 平均2h/月・編集事務 8h/月×12ヶ月×@800/時 年96時間	
	事業3事務局人件費	76,800	花壇管理18回・講師打ち合わせ・資料作成・講座 8h/月×12ヶ月×@800/時間 年間96時間	
	全体運営	120,000	全体企画運営・会計・報告書作成 3h/週×50週×@800/時 年150時間	
	通信費	24,000	電話使用料 @2000/月×12ヶ月	
	消耗品費	38,880	事務文具・事業1展示用具他 @3000/月×12ヶ月×税	
	保険費	4,080	全国社会福祉協議会福祉総合保険Aプラン@17×延240人(事業1:21人,事業2:120人,事業3:100人)	
	小計		660,560	
計		1,426,560		

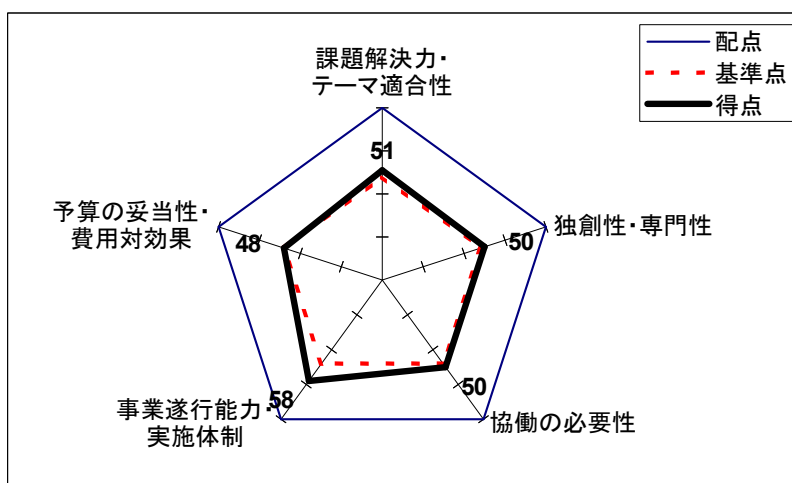
--	--

5 参考
(選考の結果)

(1) 選考結果

委員8名からなる審査委員会において5つの評価項目（配点10点，全委員計80点，合計400点）で評価を行った結果は次のとおりである。

評価項目	配点	基準点	得点
課題解決力・テーマ適合性	80	48	51
独創性・専門性	80	48	50
協働の必要性	80	48	50
事業遂行能力・実施体制	80	48	58
予算の妥当性・費用対効果	80	48	48
合計	400	240	257



(2) 審査委員会のコメント

- 貴団体の提案により，新たな近隣センターの魅力が生まれることを期待します。
- モデルケースとして効果的な協働事業が行われれば，周囲への良い刺激となり各地域に取り組みが広がるなど，更なる活性化が期待できます。
- 固定費の割合が高いので，見直しが必要です。具体的な内容と合わせ十分に検討を行っていく必要があると考えます。実施に向け，指定テーマとした行政の課題の共有を行ってください。

(3) 調整協議にむけて

- 近隣センター活用の新たな協働事業となるように関係課，コーディネーターとともに具体的な内容の検討・調整を進めてください。
- 指定管理にするかなど，将来のビジョンを担当課と共有しながら，提案団体の力を活かせるように取り組んでください。

<p>6 参考 (調整協議内容 や変更事項)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ニュースレターは、地域の障害者の力を活用するなどして、戸別配付を目指すため、配付活動費の追加等を行った。 ○近隣センターの談話室に有償で常駐し、コンシェルジュのような役割を検討したが、定期的に情報・掲示板の整理を行う方法に変更した。 ○花壇整備に市民が参加できるように関連講座を開催する。講師謝礼やプランターの見積りの見直しを行った。 ○情報整理、ニュースレター作成、市民参加型の花壇の3つの取り組みは事業ごとに団体の担当者が異なる予定だが、情報の収集・情報発信・参加呼びかけと横につながり持ち、効果的に取り組んでいくことを共通認識した。
<p>7 参考 (報告会での 意見)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○提案団体が少しずつ地域の人や団体と関係を築いていくことは円滑な事業実施に大切なことである。目標など、団体と市が共通認識を持って事業を進めていただきたい。 ○温かみのある施設になるように展示やイベント、花壇づくりなどを考えていっていただきたい。 ○近隣センターは、子どもや地域の人が様々な使い方をしていくことなど、現状を理解し検討して行ってほしい。 ○ニュースレターは、内容次第で存在価値が変わってくる。地域で役立つ情報を工夫して掲載するなど団体の個性が発揮されることが期待される。 ○開かれた公共を目指すうえで、公共であるがゆえに制約される場所があると思うが、近隣センターが変化していくことに期待の持てる内容だと考える。 ○地域がよりよくなるために重複して行った方がいいことと、効率性を考えると重複しない方がいい部分を精査し、事業を行って欲しい。

2 審査会及び報告会を終えて

(柏市民公益活動促進審査委員会 委員長 安藤 雄太)

柏市民公益活動促進審査委員会においては、個々の提案の審議について、真摯な姿勢で検討し活発な議論により、公正な審査と評価に努めてきた。これまでの概要と今後の協働事業について、意見を述べたい。

(1) 今回提案のあった内容は、行政指定テーマに対し、松葉近隣センターがより地域に開かれ・繋がることのできる公共となるために、近隣センターの課題に、団体が共に取り組んでいくという提案であった。

事業の実現には、指定テーマとなっている課題の詳細の共有と、事業の具体案を検討していく必要があったが、団体のアイデアにより、新たな近隣センターの魅力が生まれることを期待し採択となった。

また、不採択となった提案は、教育現場への想いや課題の着眼点がとてもよいものだったが、事業の実施には、体制づくりやコアメンバー集めなどからはじめていく必要があり、団体の活動実績から、自主的に事業が実施できるものと感じるものであった。今後、教育委員会が研修を充実させる中で直接、関わりを持っていくことを期待したい。

(2) 調整協議を経て、今般の報告会において、審査会の後の調整・協議の結果をヒアリングし、具体的な事業の検討が行われ事業案が具体化したと感じた。ただし、当初の提案のイメージより、規模が小さくなっているように感じる。協働事業には従来のやり方を変えていける良さがあることを念頭に、行政が積極的に関わりを持って、団体と市が一緒になって考えていくことが必要であると改めて確認した。

住民が行政とのつながりをより持てるように、地域の特性を理解し情報発信にこれまでできなかった工夫を試みる提案を採択した。活動内容が周囲に理解してもらえるよう「見える化」についても工夫しながら、多くの住民が集まる近隣センターを目指して「協働事業」を実現させることを審査委員一同、希望するものである。

また、市を挙げて協働事業を実施するために、事業継続分も含め、予算を措置されるよう提言をするものである。

参 考 资 料

＜これまでの協働事業提案の状況＞

年度	提案件数	事業実施件数
平成17年度	26	4
平成18年度	4	2
平成19年度	6	1
平成20年度	6	0
平成21年度	2	0
平成22年度	4	2
平成23年度	0	0
平成24年度	4	3
平成25年度	2	1

平成25年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考を通過した提案

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算	市の事業関係課
1	特定非営利活動法人 ワーカーズコレクティブういず	松葉近隣センターから始まる開かれた公共・繋がる公共	誰でも気軽に立ち寄れる開かれた公共施設、いろいろな引き出しのある公共施設として街のニーズに応え質の高いサービスに繋がるように民間力をコーディネートしていく ① 情報や掲示物の整理と展示 ② ニュースレターの発行 ③ 市民参加型の花壇整備と人材育成	1,426,560	松葉近隣センター◎ 地域支援課
2	柏市レクリエーション協会	We Love Kashiwa 教師力アップ元気塾	教員の授業力アップ・コミュニケーション能力をスキルアップし、お互い学びあう場を提供する ① 教師の自主研修の場としてのセミナー ② スクールダンスインストラクター養成	400,000	指導課◎ 教育研究所◎

◎：事業の主担当課